

ウワサの保護者会!

今回のテーマは「つい目についちゃう!?わが子のダメポイント」

【今回のホゴシャーズ】

クワ	(母) : 長男・18歳/長女・高2/次女・小6/次男・小4
バジル	(母) : 長男・小5/長女・小1
たけのこ	(母) : 長男・小6/長女・小1
ひまわり	(母) : 長男・高2/次女・小6
すずらん	(母) : 長女・中1
夕顔	(母) : 長女・高1/次女・中1
ヌー	(母) : 長女・小5/長男・小2
ミドリムシ	(母) : 長男・高2/長女・中1



高山 : 尾木ママは、ダメを出されるっていうことは?

尾木 : 僕ね、ダメを出されるのはほとんどね、決まっていますよ。ごはんのとき。さすがね、45度ぐらい傾いたままテーブルに座って、ごはんを食べるの。そうするとね「もう、何これ!」ってね、ぎゅっとやられるの。

高山 : それ、つい最近の話ってことですか?

尾木 : 今朝もそう。

高山 : なんで直らないんですか?

子どもじゃないんですから、尾木ママ! (笑)

(一同笑)

こちらはバジルさんのお宅。

かわい〜い2人の子どもたち。でも、お昼ごはんを食べていると・・・



ガチャガチャ、ガチャガチャ、ガチャガチャ・・・

バジル：あんまりガチャガチャやらないって言ったでしょ、ふうちゃん！

ふうか：はいはい。

バジル：ハイは1回！

ふうか：ハイ。

バジルさんのダメポイントセンサーは超敏感！

(ふうかちゃん部屋の中で飛び跳ねる)

バジル：うるさい！



たとえ隣の部屋にいても・・・

バジル：机の上で着たものはたたまないでって、お願いしているよ。

ふうか：はい。

バジル：親子だどつつい言い過ぎちゃうっていうんですかね。

毎日の、習慣になっちゃっているような気がします。



バジル：あの、すいません、机は座るところではありません。

バジル：ちょっとさ、狭いのはわかるけど、ソファの上は、歩くところじゃないから。

バジル：汚い顔。目やにはついてるし、リップクリームはぬれてない。

バジル：疲れます。やめたいです。言わないで言うこと聞いてくれるようになるといいんですけど。

ずいぶんダメ出しされていたけど、どんなことが1番多いの？

たけゆき：え、なんだろ？なんだろか。えっと…。

え、覚えていないの???

ふうか：お母さんから言われたことは、こっちから入ってこっちからすっぽ抜け。

一方、こちらはクワさんのお宅。

つつい目についちゃうのが・・・

(ちさちゃん、飼い犬をだっこする)

クワ：あー、ちーちゃん。だっこするのやめなよ。すごく汚れるから。大変だったんだよ、洗濯。

子どもが服を汚すのは当たり前！とわかってはいても、言わずにはいられない。

クワ：だっこしたあとの服を洗うのは私なんです。

ちさ：うん！

クワ：お母さんだからと言って、そんなにたくさんの洗濯ものをね、毎回毎回…。おしんじゃあるまいし。ちょっと私のことも考えてくれないと。

みなさんも、子どものあれこれ、気になりすぎてイライラしちゃうことありませんか？

高山：皆さんもあるあると。

ねえバジルさん。お子さん、覚えてないみたいですね。

バジル：ものすごい、ショックでした。響いてないのかなって。

ダメなことをやったときにダメ出しをしているのにも関わらず、それが全然わかっていない。

だから、結局毎日同じことをやる。

夕顔：そして、もっと言っちゃうんだよね。

バジル：そう。つい、それが、昨日も言ったでしょ、ああでしょう、ああでしょう、が一っとなっていっちゃって、どんどんエスカレートしていっちゃう。

高山：クワさんもね。

クワ：ヒートアップ！

夕顔：私が、料理をしていて、娘を後ろに呼んで、なんだかんだ、ワーってダメ出しして。

娘がそのあと、トイレに行ったんですけど。トイレに行ったら、ちょっと「うーん、うーん」

みたいな、くぐもった声が聞こえてきて「え、泣いている？」と思って「あれ、ちょっと言い

過ぎた、言い方おかしかったかな」と思って、こうよく耳を澄ましたら鼻歌だったんですよ。

(一同笑)

高山 : 聞いちゃいないと (笑)
 夕顔 : 本当に。えっ！てなって。
 高山 : たけのこさん、うなずいてらっしゃいますが…。
 たけのこ : 私がやっぱ一番言うのは、朝なんです。
 まず、遅刻はダメだっていうので、やれご飯を食べるのが遅い、顔を洗うのが遅い、歯ブラシをするのが遅い、片づけるのが遅い、服を着るのが遅い。
 全部だ、遅い、遅い、早く、早く、早く、早くーって1時間言い続けて、早く行けえーって最後に大きな声で。行ってらっしゃいって、小さい声で… (苦笑)



高山 : 行ってらっしゃいの声が出ない… (笑)
 夕顔 : へとへとですよ、へとへと。
 すずらん : 私のうちは、片づけをしなくて。
 なんかやって、そのままにして、次にすぐほかのことに移っちゃうので、こっちを片づけてから始めなさいって言っているんですけど「は～い」みたいな感じで。
 怒るのってやっぱりこっちも気持ちいいものではないので「じゃあ、今度、何々までにはちゃんと片づけときなさい」っていうと、一応そこまでは片づけておくので、猶予を与えるようにして、あんまり、ガミガミは言わないようにはしているんですけど。
 高山 : なるほど。
 ダメ出しにもタイプがいくつかあるみたいですね。
 ひまわりさんはあんまり“ダメ出し”するふうには見えませんが、いかがですか？
 ひまわり : いや、本当に“ダメ出し”だらけです。
 高山 : “ダメ出し”をすることが多いってことですか？
 ひまわり : はい。やることやってないのに自由なことをやっていると「もう許せない」と思っちゃう。やらなければ本当に自由はない。どうせやらないといけないことなんだから、早めにやっちゃって、やってからの自由を味わってほしい。
 (一同共感)
 高山 : バジルさんが、強く共感されていますね。
 バジル : 「やること先にやりなさい！」は口癖です。私の口癖です。
 夕顔 : でもやっぱり、お母さんがガミガミ言ってないと、子どもは軌道修正できないところがあって。時々、本当に疲れて「ああもうご勝手に」とするんですけど、それでよくなった試しがないので。また、同じように「はい、片づけて」「はい、靴下こっちへ」みたいなことをやり続けなさいといけない。

ついついやり過ぎてしまうわが子へのダメ出し。親の気持ちは？

服が汚れてよけいな洗濯物が出ることにイライラしてしまうクワさん。
 そのダメ出しの仕方が・・・

クワ : そんなに汚したいんだったら、自分で洗えばいいだけの話じゃんか。

5分後・・・

クワ : お水を取り替える回数だってすごいんだから、もう。

10分後・・・

クワ : とにかくそんなに自分の思ったとおりにやりたいんだったら、自分でやればいいだけの話だよ。

ちさ : え、何の話をしているの？

クワ : え？なんの？こっちのほうがなんの話していたんだかわからない。だから… (苦笑)

そう、クワさんのダメ出しはすごーく長い。



ちさ : どんどんどんどん言い続けるから、わかっているよって思います。

じょうじ : 早く話題を変えてほしいという感じ。口答えするとよけい長くなるから…。

クワ : 何度も言っちゃうんですよ。でも、あとになってから考えてみると、それは私の欲であり、執着だから、本当は子どもには責任なくて、やっぱこうちょっとまずいなと思いますよね。嫌悪感も大きい。

再びバジルさんのお宅。

朝は長男のたけゆき君が学校に遅刻しないかどうかで頭がいっぱい。と、そのとき・・・

バジル : ねえ、隠したって見えているよ。ねえ。

たけゆき : 隠してないけど。

バジル : じゃあ、手広げてみなよ！

ほれみい。トイレは、マンガ読むところじゃないし。周りの人が迷惑だよ。やることやってないのに。

トイレで隠れてまんがを読んでいたことに、バジルさんヒートアップ。

バジル : 聞いている？人の話！自分の都合ばかりで。あやまりや済むからと思っているんでしょ？

そうとしかお母さんは悪いけど思えない！

毎日のように続くこんなやりとり。

その翌日も・・・

バジル：毎朝こんなことやっていておもしろいの？

たけゆき：ううん。

バジル：ええ、おもしろくないでしょうよ！お母さん最悪だよ。

こんな、こうやって始まった朝なんて本当に楽しくないよ、1日。

今日もバジルさん、怒っちゃった・・・

たけゆき：行ってきます。

バジル：行ってらっしゃい…。

バジル：やっちゃったって思いますね。

特に、くどくど言っちゃったあとは、ああ言っちゃったな、言わなきゃよかったかなって、いつも思うんですけど、嫌な気分を引きずるのは親のほうで…。ちょっとそれも腹立たしいっていうのがあります。

高山：「言わなきゃよかったな」なんて…。自己嫌悪っていうんですかね。

バジル：クワさんの話じゃないんですけど、つい話が長くなっちゃうっていうこともあります。

1つのことを怒っていたはずなんですけど、それを聞いている態度が悪いと「だから、いつも、その態度が悪いんだよ」と、どんどん違うことに…。元の怒っていたことは、あとのほうになってくると、だんだん「あれ、何怒っていたんだっけ？」っていう。

夕顔：だって、やっていることが、すごく理不尽なんです。

約束しといて、あとで知らん顔して「そうだっけ」って顔していたら腹も立ちますよ。

ついつい言い過ぎて、朝も、そのままの気持ちで送り出したりとかすると「あーもう！」って、1人になるとどうしても…。

たけのこ：朝は笑顔でいってらっしゃい、これやらなきゃダメ！！

毎日思っているんだけど。

夕顔：そうなんですよね。帰ってくるまで、なんか嫌な気持ちで…。

まあ、子どもはケロッとして帰ってくるんですけどね。

尾木：帰ってくるまで、引きずっちゃう？

夕顔：引きずっちゃう、やっぱり。

そういう、自分の感情をコントロールできなかったことに悔しくて…。

クワ：とにかく、自分の気持ちに余裕がなくなっちゃうからああなるわけで。

とりあえずお互い様で、子どもも自分に迷惑かけているわけだし、自分も子どもに対して不完全なんだから、じゃあ、フィフティーフィフティーじゃんって思います。

でも、怒りますよ、ワー！みたいに言って。

高山：やっぱり怒るんですね (笑)

クワ：言いすぎちゃったりもします。

どうしてこんなにわが子のダメポイントは気になるの? 専門家に聞くと・・・

いろいろきっちりしないといけないっていう世の中の風潮が年々強いので、言いたくなって当然かなと思います。親の立場だったらね。

でも、カッとなるときには、なにかを自分が守っているから、カッとなるんですね。周りの人からどう見られるかであったり「その子のため」と言いながら、成績のことばかりであったり。実は、自分がどう生きているかということが、子どもを怒るときにとってもバレちゃう、わかってしまう、価値観なんですよ。

高山 : バジルさん、これにはどう答えますか?

バジル : 何となく、胸が痛いんです。

でも、やっぱり自分たちが食べているところで、ガチャガチャガチャっていうのは、面白くないし、家でやっていると外でも出ちゃうかなって不安が、親としてはありますよね。

すずらん : やっぱり言ってあげられるのって親しかいないし、社会人になって、そういう態度をしていたら「ああこういう子ね」って、他人が思っちゃうので。

そこはね、親が守んなきゃと思いますよね。

バジル : 最低限ね。思いますよね。

尾木 : 親の愛情だもんね。

高山 : 先ほどから一言もしゃべってない方がいらっしゃるんですが。

ミドリムシさん、お待たせいたしました。ミドリムシさんは“ダメ出し”はしないと。

ミドリムシ : そうですね。あまり「勉強しろ」とか「早く」とかは、言わないですね。

たけのこ : そんな方がね、世の中にいるなんて!-

ミドリムシ : まあ3歳ぐらいまで、幼稚園にあがる前なんですけど、本当に1分たりともスケジュールを狂わせた生活をしてないんですよ。それがよかったのかなあっていうのがあります。時間を守るとか。

朝は6時にごはんを食べて公園に行って、12時お昼ごはんを食べてお昼寝して、また公園行って夜ごはん食べて寝るっていうのを、ずーっと続けていたので。ほとんどもう外で生活していたので。

高山 : 外で生活!?

(一同笑)

ミドリムシ : 食べること、お風呂に入ることだけはおうちで、あとはもう、公園でずっと遊んでいたりしていたんで、もう白目むきながら夜ごはんを食べてそのまま寝るっていうような。

発散することをいっぱいしていたからか、あんまりキイキイも言わないです。

高山 : じゃあ、ダメ出しする必要がないと?

ミドリムシ : ないです。

高山 : こういうこともあるんですね。初めて聞きました。

尾木 : 僕も初めて聞いたけど。

高山 : あの、もうひと方、“ダメ出し”しないという方がいらっしゃいます。

どうされているんですか、ヌーさんは?

ヌー : ちょっと、ここ(ミドリムシさんとの間)区切っていいですか?(笑)

どちらかというところらに。(ほかのホゴシャーズに手を差し伸べる)

全く、ミドリムシさんの子どもとタイプは違います。正反対です。だけど、ダメ出しはしない。

高山 : ダメ出しはしないと。

ヌー : 納豆の例をまた出しちゃうんですけど、こうガチャガチャやっていて「あ、これは、やっぱ教えなきゃ」と思った場合、私は3択を出して選ばせます。

まず、見せる。最初にあぐらをかいて、こうやりますとかを見せて「1番、これがきれい」「2番、これがきれい」「3番これがきれい」とかやるんですよ。「さあ、どれがいい」というと「ああ、じゃあ2番だな」と。そうやると「あっ」って子どもも気付いてくれて、という感じです。クイズ方式ですね。

あの、もちろん言いたいんですけど、のどのここまで出ているんだけど「チッ。また、こぼしている」と思うんですけども、そこで言う「ああ、もう!」って子どもが切れるんです。

そういう経験もあるので、この子はダメ出しすると切れるタイプ。ほめると元気になっちゃうタイプなので、3択をやって「正解、よくわかったね」ってやると、なんかいいみたいで…。

- 高山 : 夕顔さんは唇をかみしめてらっしゃる。
ほめるということに何か違和感があるのですかね?
- 夕顔 : ほめるポイントが、私にはちょっと、よくわからなくて。
例えば、きれいに食べるっていうことも「それは当たり前」っていうふうにしたいんですよ。
「きれいに食べたからえらいでしょ」って子どもは言ってほしいだろうし、まあ「上手に食べたね」って、小さいときは言いましたよ。
でも、今、小学校卒業して中学生になりましたってときに「きれいに食べたってほめて」って言われてもほめられないですよ。やっぱり、当たり前でしょっていうことが、すごく増えてきちゃっているから。
- バジル : ほめたいとは思っている?
- 夕顔 : てか、ほめたい?ほめられたい?自分は?私はそんなにほめられなくても大丈夫みたい。
- クワ : 私も、それわかる。あの、要するに、ほめられて浮き上がったところ、ほめられない事態があると、落ち込む子どもになっちゃうことがあるんですよ。私なんか、そのタイプだったので。
- 尾木 : ああ、なるほど。
- すずらん : 怒るのも一緒に、ほめるのも、親ぐらいしかほめてあげないって私は思っちゃうんですよ。
- 夕顔 : 本当?
- すずらん : だから、親ぐらいせめて褒めてあげようっていうか。ヌーさんもたぶんそうだと思うんです。ほめられたいんですよ?
- ヌー : そうそう、自分がほめられたい。
- 高山 : なるほど、なるほど。
- 尾木 : 「ありがとう」とかいう感謝の言葉はうれしくないの?ほめられると同じ感じじゃない?
- 夕顔 : ありがとうは、ちょっと、なんか、恥ずかしいですね。わざわざありがとうとか…。
- 尾木 : そうなんだ。
- 夕顔 : よく、お父さん、お母さんへの感謝の手紙とかあるじゃないですか?お母さん毎日なにになにとかしてくれてありがとうとか、そういうの、私はいいですって感じがある。おかしいのか、私。そういうところが、出ているのかもしれないですね、子どもに対する、言葉のかけ方に。
- 高山 : たけのこさんはどうですか?
ほめるという話になっていますけど。
- たけのこ : 私が、ごはんのとき「汚い」とか、ガーっと、やっぱりいつもどおりに子どもに怒っていると、昨日の話なんですけど「お母さん」って急に「何で、今日のシチュエーションって、こんなにおいしいの?ありがとう」って、くるって振り返って笑顔で言われたんですよ。
私「カー!」って怖い顔していたのに、ハッて「あれ、ごめん」と思って「そ、そお?」って感じで、もう、怒るのをやめる私、って思って…。
- バジル : そのときは思うんですよ。
- たけのこ : 思ったの、そうなの。私もほめられたいんだなって思った。私がこんなにうれしいってことはきっと彼らは、もっとほめられたいだろうなと思ったときに、これはいかん。これはいかん、もっとほめなきゃいかんと思った。
あのまなざしで言われると、これはこたえましたね。
- 夕顔 : こたえるよね。
- たけのこ : こたえる。うーん。
- 高山 : 子どもが教えてくれた?
- たけのこ : 教えてくれました。

わが子へのダメ出しは、親自身の子どもの頃の経験が影響していることも少なくないという。番組にこんな悩みが寄せられた。

「私は両親から常に100%の結果を求められ、たとえ結果を出しても喜んでもらえませんでした。親となった今、だらしのない子どもを見ると完璧を求め、激しくダメ出ししたくなります。」

続いて・・・

「私の息子はあまりやる気がなく、宿題も自分からやろうとしません。最初は言葉で注意しますが、ついイライラし、手が出てしまいます。そんな私は子どもの頃、親のいうことをきかないと、たたかれてきた経験があります。どうしたら手を出さないでいられるのでしょうか。本当に悩んでいます。」

今回スタジオに来てくれているホゴシャーズ、たけのこさんの場合。

「私は子どもの頃、親に出来のいい兄と比べられてばかりいました。何かにつけて、親から「バカ」「頭が悪いとろくな人間にならない」と言われ続け、本当に親が嫌いでした。そんな私は、今、わが子にそっくりそのままのことを言ってしまう、ハッとすることがあります。」

自分自身の体験の影響、思い当たることありませんか？

高山 : 自分が子どもの頃の思いがよみがえる…?

たけのこ : 家族といってもなんか自分の居場所じゃないなあってずっと生きてきて。こうなんか、人格を否定されていたような気がしているんですね。ほめられた経験が1回もないですね。常にやっぱり兄がすごい出来がよくって「お前は どうしてできない」「お前はなんでこんなにバカなんだ」って言われて「私はできないからここにはいないんだろうな」って思って。ちょっと、きつい…悲しかったんです。それで、私は家族持たないってところまで思っていたんですけど。

高山 : 大人になったら?

たけのこ : そうですね。でも、やっぱり今家族ができて幸せだなんて思うんですけど、自分の中で自己否定のまま大きくなっちゃっているような、なんていうんですかね、そういう気持ちがまだ満たされていないようなところがちょっとあって。自分に自信がないのに、でもやっぱりイライラして怒っちゃったり「こんな私がよく言えますね」って心の中の自分も言っていたりして。私が親に「好きだよ」とか言われたことがなかったので、自分は絶対毎日言おうと思って、夜寝るときに「今日怒ってごめんね。でも、大好きだよ」ってことは必ず夜は言うようにしています。

尾木 : ご本人には聞こえるように?

寝てから言うお母さん多いんだけど、あれほとんど自己満足だから。寝ているんじゃ気がつかない。でも、起きているときに言っているの?それはすごいですよ。

たけのこ : 眠いからいいよって言われても「ごめん、ごめん。大好きだよー」とか頭をなでて、やっている。

尾木 : それはすばらしいですよ。

たけのこ : とりあえず、私の気持ちは知ってほしい。それは思ったので。

尾木 : やっぱり1番つらいのは比較されることだね。特に、姉だとか兄だとかね。兄弟との比較は本当につらいと思う。でもそれをこう、気持ちを切り替えてやっているんだもんね。これはすごい力よ。

自分のことを愛せてないっておっしゃっていたけども、そういう形で自分に戻ってきますから。そうできている自分はまだ100%愛していると思う。素敵ですよ、本当に。

たけのこ : そうですか?

尾木 : そうですかって、本当にそれができない人が圧倒的に多いんだから。

ミドリムシ : だって、シチューおいしいって言うてくださるんだもんね。

かわいいですよ。

尾木 : それがやっぱり、ちゃんと表現されていますよね。愛情が伝わっているからおいしいっていうわけでもんね

高山 : 子どもの頃は、ミドリムシさんは?

ミドリムシ : 私自身、子どもは嫌いだったんですね。

あの、元々私自身、あまり母にひつついた覚えはないし「すごく可愛い」と、こう抱きしめられた記憶もないんですね、正直。

姉がいて、私が妹なので、ずっとお姉ちゃんに遊んでもらっていたって感じで、受け身な感じだったので、子どもを見るっていう成長段階を知らないの、どうしていいかわからない。

ミドリムシ：子どもを「愛情」という感覚では、初めはよくわからなかったです。本当に規則正しく生活させるぐらいしか私にはできなかったから、もう大半のスケジュールを決めて食事を作って与えるっていうか。

言ったら変なんですけど、なんか作業という感覚でずっとこなしていたという感じですかね。でも、やっぱり自分の子どもは、痛い思いをして生まれてきた子どもはやっぱり可愛くて。だから、本当にやっぱり、いっぱい抱っこはいっぱいしてあげて。

高山：愛情をちゃんと注いであげたいなという気持ちなんですね。

ミドリムシ：そうですね、いっぱい抱っこしてあげたい。

尾木：今日来られた方がすばらしいと思うのは、つらい体験を乗り越えて、相対化して新しい母親像みたいな、そこへいかれているの。それは完璧ではないにしたって、ちょっとでもやるのは大変なことなのに、すごいと思うのね。

共通しているのはやっぱり、完璧な、そのもっという、さらにいい母親を目指すことは、それは愛情なのよ。もうどうでもいいやって捨てていたら、そんな怒りもしないじゃない？だから怒るのも愛だし。それが、ごちゃごちゃダメ出しになっているの。

でも、子どもにね、同じこと繰り返して言うんじゃなくて「考えさせる」という機会を与えればいいの。それも「考えておきなさい」とって、突き放すんじゃなくてお母さんも一緒になって考えてあげるの。



夕顔：やっぱり、子育て大変ですけど、その過程で得ているものってすごく大きいですよ。だから、反省したり泣いたり、ねえ。ばっかりですけど、私(笑)皆さんは違うかもしれないけど。

みなさんのご意見や体験談を番組ホームページまでお寄せください！
次回もお楽しみに！

(終)